

- みんなでとったぞ IF、GTCS 臨時増刊発行のお知らせ 1 面
- 日本胸部外科女性医師の会、JATS Academy 2 面
- 第2回理事会ニュース 3 面
- 第73回日本食道学会集会、第72回学術集会情報、サマースクール告知、ネクタイ販売、編集後記 4 面

みんなでとったぞ インパクトファクター (IF)

GTCSの取り組み GTCS編集委員長 大北 裕

General Thoracic and Cardiovascular Surgery (GTCS) は日本胸部外科学会、日本呼吸器外科学会のOfficial Journal、日本心臓血管外科学会のAffiliated Journalです

2018年3月始めにClarivate Analytics社(旧Thomson Reuters社)から2016年の論文からデータベース、Science Citation Index ExpandにGTCSがIndexされると通知がありました。

日本胸部外科学会雑誌は1948年南江堂の季刊“胸部外科”の底を借りる形で誕生し、1955年に和文誌として発足しましたが、国際化を目指して、1998年に英文誌JJTCVS (Japanese Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery)として再出発しました。一層のグローバル化、web対応を目論んで2007年にGTCS (General Thoracic and Cardiovascular Surgery)と改名、出版社もSpringer Verlag社に変更しました。本誌は、2011年当時編集長であられた三好新一郎先生のもと1回目のIF申請を行いました。爾来、review article、original articleのリクルート、GTCS引用の働きかけを皆様にお願ひしてきました。2015年12月に再度IF申請

を行い、英文誌化以来、雌伏10年目後の吉報です。通常であれば今年発表されるIF 2018 (2016-2017 出版論文が分母)から適用になります。しかし、IFの予備段階的なデータベースであるEmerging Sources Citation IndexにはGTCSは2015年からIndexされているため、現在、2018年発表のIF 2017 (2015-2016 出版論文が分母)でつく可能性があります。また、具体的なIFの数値については、現在の所、不明です。

これも皆様がGTCS充実のため、論文作成、査読などに払われたご努力の賜物と感謝しています。これらに應えるため、従来の優秀論文賞に加えて、本年度からBest Reviewer Awardを新設しました。編集方針は従来と何ら変わることがありません。IF計算の分母である総論文数を減らし、引用頻度の高いoriginal article、reviewを増やし、case reportを絞っています。この結果、original articleのaccept率が約50%、case reportが30%

前後です。GTCSとしては質の高いoriginal article、reviewのご投稿を歓迎します。また、学術集会における招請講演、卒後セミナーでの演者の先生方へお願いですが、是非ともinvited review articleとして、GTCSにご投稿下さい。他の英文誌雑誌(J Thorac Cardiovasc Surg, Ann Thorac Surg, Eur J Cardiothorac Surg, Circulation, Cir J, J Art Orgなど)に論文を投稿される時には、2017年、2018年発行のGTCSに掲載されている論文を引用してください。心臓、呼吸器、食道各領域の分野別の2017、2018年論文リストはGTCSホームページに掲載します。引用頻度の高い本学会学術委員会の学術調査報告書(Annual report)もフリーアクセスとなっています。2016年度の集計結果は本年4月号に掲載予定で、2017年の集計、JCVSD biannual report (2015-2016)も近日中に発行できるかと思います。

2019年1月、special editionとして“Controversies in Surgery for Thoracic

Aorta” (<https://link.springer.com/journal/11748/67/1>)が発刊され、胸部大動脈手術のユニークなmonographとして斯界の反響は良好です。次の企画として、“Diagnosis and treatment for early stage non-small cell lung cancer, David Jones, Hiroshi Date ; editors”, “Surgery for functional mitral regurgitation, David Adams, Hirokuni Arai; editors”を予定しています。

従来と違って今年からは、GTCS論文を引用すると、GTCS IFに寄与します。注意が必要なのは、沢山のGTCS論文を引用しすぎると、self-quotation checkに抵触します。また、2015年以前のGTCS論文を引用されても2018年以降のIFには反映されません。2016~2019年のGTCS論文引用をお願いします。

会員諸兄姉のご協力を以て、GTCSがIFを獲得できました、皆様にお礼申し上げます。今後とも、GTCSを何卒宜しく願ひ申し上げます。

GTCS臨時増刊発行のお知らせ

Volume 67, Issue 1, January 2019

SPECIAL EDITION “Controversies in Surgery for Thoracic Aorta”



Thoracic aortic aneurysm: unlocking the “silent killer” secrets
Ayman A. Saeyeldin

Is there a role for biomarkers in thoracic aortic aneurysm disease?
Damian Balmforth

Why I choose to repair and not to replace the aortic valve?
Athanasios Antoniou

Surgical strategy for refractory aortitis
Hitoshi Ogino

Decoding the volume–outcome relationship in Type A aortic dissection
Athanasios Antoniou

Measuring what matters to the patient: health related quality of life after aortic valve and thoracic aortic

surgery

Frederiek de Heer

How to treat aortic graft infection? With a special emphasis on xeno-pericardial aortic tube grafts

Thierry Carrel

Thoracoabdominal aortic replacement in patients aged 50 and younger

Kenji Minatoya

Guidelines for the management of thoracic aortic disease in 2017

Suyog A. Mokashi

Tirone on Tirone David operation and types

Tirone E. David

A systematic review and meta-analysis of mechanical vs biological composite aortic root replacement, early and 1-year results

Mohamad Bashir

PRO-CON debate: valve sparing aortic root surgery. PRO: reimplantation

Ruggiero De Paulis

Valve-sparing aortic root surgery. CON: remodeling

Takashi Kunihara

Bicuspid aortic valve related aortopathy

Sina Stock

Brain protection in aortic arch aneurysm: antegrade or retrograde?

Amer Harky

Is the frozen elephant trunk frozen?

Roberto Di Bartolomeo

Redo proximal thoracic aortic surgery: challenges and controversies

Athanasios Antoniou

Aortic arch aneurysm surgery: what is the gold standard temperature in the absence of randomized data?

Amer Harky

Is there a prospect for hybrid aortic arch surgery?

Mohamad Bashir

How should we manage type A aortic dissection?

Arminder S. Jassar

The IRAD and beyond: what have we unravelled so far?

Xun Yuan

How should we manage type B aortic dissections?

J. Fleerackers

Direct perfusion of the carotid artery in patients with brain malperfusion secondary to acute aortic dissection

Yutaka Okita

Reflection of pioneers: redo thoracoabdominal aortic aneurysm repair controversies in thoracic aortic aneurysm surgery

Joseph S. Coselli

Thoracoabdominal aortic aneurysm repair: open, endovascular, or hybrid?

Joshua M. Rosenblum

Differential selective hypothermic intercostal artery perfusion: a new method to probe spinal cord perfusion during thoracoabdominal aortic aneurysm repair

Yoshikatsu Saiki

Japanese perspective in surgery for thoracoabdominal aortic aneurysms

Norihiko Shiiya

Renal protection in thoracoabdominal aortic aneurysm surgery

Mohamad Bashir

日本胸部外科女性医師の会 (WTS in Japan)

第13回日本胸部外科女性医師の会 開催報告

舞鶴共済病院 心臓血管外科 林田恭子

第13回日本胸部外科女性医師の会（共催：日本胸部外科学会、日本医師会）は、＜一歩先の未来へ＞をメインテーマに、今回初めて企画された男女共同参画プログラムに先んじて、同じ会場で開催しました。大会長の荒井 裕国先生には、お取

り計らいをいただき、有難うございました。

今回は、欧州で胸部外科医として活躍されているGunda Leschber先生をお招きし、ドイツにおける女性医師の状況について、ご講演をいただきました。先生



ご自身は、mentor/role modelとなる女性外科医が周囲にいない中で臨床経験を積まれました。2006年にFiT (Frauen in Thoraxchirurgie；女性医師の会)を設立、欧州胸部外科学会唯一の女性理事に抜擢され、理事長を務められました。その間、leaderとしての女性医師教育を提唱して来られました。現在、先生の医局は、70%が女性呼吸器外科医という構成で、もう少し男性医局員が多くて良かったとお考えのようでしたが、円滑に運営されているそうです。2008～2009年にドイツ女性外科医に対して実施されたアンケート調査で浮彫りになったのは、アナムネ取り、IC、臨床一般は女性医師が受け持つことが多く、論文執筆、責任を伴う仕事、委員会での仕事などは男性が受け持つことが圧倒的に多い、という

実状でした。「生まれ変わった場合、また外科医になることを選択するか」という問いに対しては、「条件が整えば」という消極的な意見も含め「選択する」の回答が80%以上であったそうです。参加者は、海外のDrを含め、28名でした。終了時刻ギリギリまで活発な意見交換が行われ、盛会のうちに終了しました。

日本胸部外科女性医師の会は、男女を問わず、次世代の胸部外科医のキャリア充実と幅広い活躍を願い、今後も学会・会員と、連動・連携をとりながら活動して参ります。末筆ではございますが、これまでの活動に、ご理解、ご協力いただきました会員の皆様に感謝申し上げます。活動内容はホームページ (wtsjapan.umin.jp/) でご覧いただけますので、ご活用ください。

若手・中堅胸部外科医の皆さんへ



JATS Academy 2018.10 OPEN!

若手・中堅胸部外科医の皆さんのバックアップを目的として、会員ページにオープンした『JATS Academy』。まだご存知でない皆さんにはもちろん、既にご覧いただいている皆さんにもより活用していただきたく、『JUST NOW JATS』には前々号、前号に続いての記事掲載となりました。現在、会員専用のため、JATSホームページの『会員ページ』から入ってください。

今号は『手術ビデオ・ライブラリー』と『JATS Research Project Award』についてご紹介します。前者は臨床面、後者は研究面でのバックアップが意図された、現在の代表的なコンテンツです。

産声を上げたばかりですが、『JATS Academy』には、学会から次世代を担う皆さんへの期待、そしてエールがふんだんに込められていく予定です。胸部外科領域で歩みを進める皆さんの背中をグッと押すことを願っています。

手術ビデオ・ライブラリー

2019年3月19日現在で、心臓血管外科、呼吸器外科、食道外科、3分野計50本の手術ビデオがアップされています。皆様の教育・育成のため、わが国を代表する著名な先生方から、多くのビデオを提供していただきました。今後も多くのビデオのアップを予定しています。当会の会員でなければ観られない、普段の環境では観られない「一流の手術」がお手元でじっくりと何回でも確認できます。

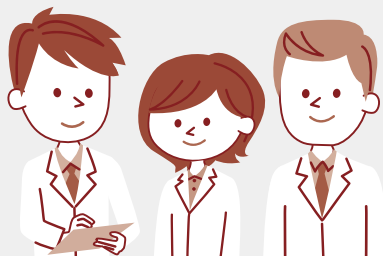
JATS Research Project Award

昨年度より、胸部ならではのより横断的な研究を対象としたJATS award for transitional clinical research (100万円1件)、若手を対象としたJATS award for young investigators (50万円3件)の2種の研究助成をはじめました。先日、第2回の選考を終えたところです。研究をお考えの方は第3回の募集が

秋に予定されておりますので、お忘れなく。

当助成に当たっては多くの企業様のご支援を賜りました。ご賛同いただいた企業様におかれましては厚く御礼を申し上げます。

(研究・教育委員会 委員長 荻野 均)



胸部外科学会トップページ

会員ページ ※ログインが必要です

JATS Academy



JATS Research Project Award

第1回 寄付金支援企業一覧 (支援額次いで振込順・敬称略)

- | | |
|-------------------|-------------------------------|
| 1 テルモ株式会社 | 9 川澄化学工業株式会社 |
| 2 平和物産株式会社 | 10 日本メドトロニック株式会社 |
| 3 日本ライフライン株式会社 | 11 大正富山医薬品株式会社 |
| 4 泉工医科工業株式会社 | 12 日本ビー・エックス・アイ株式会社 |
| 5 日本ゴア株式会社 | 13 アボットメディカル ジャパン株式会社 (旧 SJM) |
| 6 センチュリーメディカル株式会社 | 14 株式会社バイタル |
| 7 タクト医療株式会社 | 15 アルフレッサファーマ株式会社 |
| 8 西村器械株式会社 | |

1. 各種委員会報告及び審議事項

2019年度委員会委員名簿について、前回理事会から若干名の委員変更があった。

(1) 理事会

審議事項

1) 特別会員推薦

特別会員の推薦基準（満65歳以上で通算15年以上の評議員歴、あるいは理事会において特に認めた方）の評議員歴について検討したが、2016年に変更したばかりであり、理事からの推薦があればその都度、委員歴等（通算10年以上）を参考に理事会で検討することとした。

2) 「各診療領域におけるICTの利活用の考え方」アンケート協力願い

上記の件が、日本医学会連合から加盟学会にアンケート依頼があり、検討の結果、広報（Homepage・Internet）委員会に依頼する。

報告事項

1) サブスペシャルティ学会理事長との協議会

日本外科学会では会員の平均年齢の高齢化とともに多くの問題を抱え、学術集会のあり方もその1つで演題応募が若い医師にとって負担となっている。委員会内に『学術集会のあり方』WGを設置し検討してきたが、更に情報を共有し建設的な議論を深めたいとの理由から協議会が開催され、その議事録（案）が報告された。WGの主な提案事項として 1）内容の重複を避けるため日本外科学会と各サブスペ学会との合同プログラム委員会を恒常的に設けてはどうか 2）JDDW（日本消化器関連学会週間）のように日本外科学会と各サブスペ学会が一同に会するSurgical Weekを開催してはどうか 3）会場の固定化 4）外科系共通の会員カードの導入等があり、フリーに意見交換を行った。これらをふまえて、各サブスペ学会でも5～10年後を見据えてSurgical Weekなどについて検討してもらうと同時に、恒常的な協議の場を設けることの案内が日本外科学会から送付されることとなる。また、外科系共通会員カードについて提案された。

2) Japan Lifeline社Frozenixを用いたFrozen Elephant Trunk手術（FFT）の分野別Distal SINE（Stent-Induced New Entry）に関する調査報告
日本心臓血管外科学会医療安全委員会から、上記医療機器に関する有害事象（distal SINE）の調査結果及び結論書が報告され、学会ホームページに掲載する。

3) 肺癌登録合同委員会からの分担金依頼

平成29年度の活動報告書、会計書類及び平成30年度の活動計画書及び予算書が提出され、平成30年度の運営分担金を支払うことが承認された。

(2) 総合将来計画委員会

1) 2021年の分野会長

全員が同一大学になる可能性があるが、予定されている2名とも当該分野の第一人者であり、分野会長制度導入の趣旨には反しない。

2) 2022年の統括会長

検討の結果、呼吸器外科が担当することとなり、今後は3分野のバランスを考えて検討する。

3) 事務局機能強化の具体案、職員増員

応募者について面接を行う予定である。

4) 常設のプログラム委員会について

プログラムの継続性・改革案などを検討していくため、2020年会長及び分野会長に学術集会委員会への参加を依頼する。

5) 分野会長制度への具体的取り組み、学術集会資金の集め方、会長講演、プログラム編成
学術集会運営に関する担当者を雇用し、事業の企画、外国人招致、その他学術集会運営に関するすべての企画・運営（寄付金募集の趣意書の作成等）を行う。また、会長講演は分野会長も含めて3名が行う。

6) 一般社団法人化における正会員について

一般社団法人化に際しては評議員を社員とし、評議員会を社員総会とする。現状のNPO法人の正会員を残す、名称は正会員なのに議決権がないこととなるので、現正会員を専門医会員と読み替えることで検討し、引き続き専門医会員の継続性について審議する。また、一般社団法人において社員数の規定はなく、増員を検討する。

(3) 専門医制度委員会

昨年末に開催された外科学会専門医制度委員会



及び外科関連専門医制度委員会の資料が報告された。心臓・呼吸器領域は承認予定。未認定領域、サブスペ領域の審査スケジュール、専門医更新基準は外科学会は単位、サブスペ領域は回数なので同じにしたほうがよいのではなどである。また、医師養成課程を通じた医師確保対策の充実として医師法及び医療法の改正があり、専門医研修に厚生労働大臣及び知事による地域の意見を反映する制度が法定、外科専門医申請における消化器外科症例数50例の低減、都市部の研修医数などが報告された。

1) 心臓血管外科専門医認定機構

2018年試験結果、働き方改革に関連するデータ収集のため専門医更新時にアンケート調査を実施、血管内治療の修練施設、認定登録医及び再取得制度の検討、本年4月から新専門医制度による修練開始を暫定的に実施予定等が報告された。

(4) 正会員選出委員会

2020年の正会員申請の案内（2019年第72回学術集会から3年間、正会員（評議員は除く）に限り、参加費5,000円割引）、申請スケジュールが報告された。

(5) 会誌編集委員会

報告事項

1. Reviewerを整理 2. JCVSD報告をGTCSに掲載する依頼は、Secondary publicationを経た上でJCVSDと心臓血管外科学会で明確な方針を決めていただく 3. 海外への冊子体送付は不明者が多く中止 4. 2019年からBest Reviewer賞を新設（心臓は先天性・後天性、呼吸器、食道の4名） 5. Volume 67 January 2019 Issue 1をSPECIAL EDITION “Controversies in Surgery for Thoracic Aorta”として発刊 6. 論文超過ページは、シュプリングァー社との出版契約変更により掲載ページ数制限が無くなり著者への超過ページ負担はなし、Open Choice費用の変更（2019年1月9日以降のアクセプトされた論文から適用：2200 EUR⇒2480 EUR） 7. 論文投稿・掲載状況はすべて増加傾向 8. GTCS Preliminary IF 2018説明 9. 2017・2018 GTCS引用促進分野別論文リストを作成し掲載 10. 70周年記念誌は2019年年初に刊行し正会員に発送したことが報告された。

(6) 学術委員会

1) Annual Report 2016の調査完了とReport作成

GTCS誌に投稿し、シュプリングァーで確認作業中である。

2) Annual Report 2017

NCD（JCVSD）データからの解析による出力とするため、JCVSD解析担当者を本委員に選任する。現在、パイロット的にCABGの解析を行っており、内容を次回心臓分野の委員会で検討する。呼吸器は調査完了、食道は数施設に内容を再確認中である。

3) Annual Report 2018

食道はNCDデータからの出力のためコンパータ委員を組織し検討中である。

(7) 学術集会委員会

審議事項

本会学術集会における欧州呼吸器外科学会との定期的共同セッションの開催について次期分野会長から提案された。本会からの代表者がESTSに参加する場合の旅費規定のバランスをとり進める。

報告事項

学術集会での共通講習及び領域講習のQRコードの管理、学術集会運営業務担当者の選定、第1回委員会議事録、日本外科学会とサブスペ理事長との学術集会のあり方、総合将来計画委員会から提案されている学術集会のプラットフォームの構築について報告された。

第72回学術集会

主要プログラム案として山中 伸弥先生の特別

講演、特別企画として胸部外科とiPS・再生医療、領域別主要セッション案、各分野の最新の話題（プログラム委員長中心に）、海外招請演者（約30名）が報告された。

(8) 倫理・安全管理委員会

医療事故調査外部委員派遣依頼は2件あり、1件は3名を派遣し、1件は1名を推薦、心臓血管外科ライブ手術届出1件を受理、医療事故調査制度の現況報告、第72回学術集会時の医療安全講習会の企画を委員会で確認中、医療安全調査機構のアンケート調査結果等が報告された。

(9) 診療問題委員会

審議事項

自己心膜等による大動脈弁再建術（尾崎法）の保険診療登録要望が大動脈研究会より本会理事長宛てに提出された。弁置換に「自己弁完全切除後に自己心膜等を用いて大動脈弁再建術を行ったものを含む」という但し書きを加え、外保連に要望項目として提出してほしいという内容である。検討の結果、データが少ないのでもう少し詳しいデータを提出いただいてから検討する。

報告事項

国立保健医療科学院からの新規手術・手技の導入・実施支援に向けて望まれる制度に関する調査のアンケートに回答したことが報告された。

(10) 研究・教育委員会

審議事項

1) NCDデータを利用した複数領域にまたがる新規研究課題

本会から「NCDデータを利用した大動脈食道瘻の多領域に渡る実態調査研究」と「呼吸器心臓血管外科領域疾患における術後脳梗塞の発生病因の解析」を申請したが、日本外科学会から再提示の依頼があり、それぞれの申請者に戻して、返事をいただくこととした。

2) JATS Academy 手術ビデオ・ライブラリー追加費用

全194本依頼中97本提出があり、10月2日に既に50本を公開し、今後残りの47本が内容確認・公開待ちの状態である。費用分類は初期構築費、年間運用費用と更に動画形式変換作業（ロゴを挿入し、転載できないようにする）として費用税込み約100万円の経費がかかるが、前者の2点は昨年度の理事会で承認済みにて3点目について審議された。結果、再見積りを依頼することとし、委員長が交渉することとした。

報告事項

1) JATS Academy

手術ビデオ・ライブラリー等は会員専用ページに構築済みであるが、その閲覧のため非会員も入会したくなるような紹介ページも表側に構築予定である。当Academyをより充実させるため関係業者各社との打ち合わせを開催予定である。また、News Letter 1月号より3号連続で周知記事を掲載する。

2) JATS Research Project Award

第1回 受賞者からの初の経過報告を3月末に控えており、報告書の様式を今後詰める予定
第2回 12月25日（火）締め切り、臨床研究助成4、若手胸部外科医研究助成18の申請があり、委員会にて一次選考を行う。基金については、3月末までに予算を達成すべく努力する。

3) サマースクール

2018年度心臓血管外科の決算報告、収支差額421,880円の黒字が承認された。日本心臓血管外科学会第6回理事会において決算報告は承認となり、3学会合同心臓血管外科サマースクール実行委員会が発足し、黒字額を実行委員会の預金通帳に振り込んだことが報告され、本理事会としても承認した。なお、本年は心臓血管外科及び呼吸器外科とも8月17日（土）、18日（日）に開催予定である。

4) Postgraduate Course

2020年～2022年の中期計画を策定中である。

なお、心臓血管外科のBasicコースおよびAdvanceコースとも今後は120分制とすることが承認された。

(11) 総務・渉外委員会

事務所移転は担当委員長との話し合いの結果が報告され、日本外科学会の状況とWeb会議の導入を視野に入れ、検討する。

(12) 定款改訂委員会

2020年選挙で次期分野会長を選出するので、本年、細則を作成する。

(13) 処遇改善・男女共同参画委員会

チーム医療推進委員会と合同で、働き方改革に関する外科学会の取り組みと外科領域における特定医療行為の術後管理パッケージ化について日本外科学会の外科医労働改善委員会の馬場委員長からの説明（医師の労働時間短縮に向けた緊急的取組）を受けたことが報告され、本理事会でも検討した。また、昨年第71回学術集会時に開催された女性医師の会の活動報告書が提出された。

(14) 国際委員会

審議事項

アジア・トラベルフェローシップの旅費助成及び助成人数は、本年度は1名5万円で20名とする提案があり、検討の結果、承認された。応募期間は一般演題募集期間と同時期とする。採用の審査は本委員会および第72回学術集会、費用は学会が負担する。

報告事項

2019年度フェローシップ概要（2019年度JATSフェローシップ、2019年度JATS/AATS Foundation Fellowship、今後のスケジュール等）が報告された。

(15) 地方会のあり方委員会

本会・地方会の一体化による地方会会員管理の変更点が事務局から報告され、承認された。

地方会入退会手続きが省力化され、勤務先変更を行うだけで異動先の地方会会員に、会員情報の管理で基幹情報（個人情報・勤務先・自宅）は本会管理で、会独自の情報（役職や評議員費など）は各地方会管理で、請求権は各地方会事務局に限定し、エクセルファイルで渡すことになる。会員管理システムの改修における所属地方会の判断方法であるが、ベースは会員の勤務先所在地で自動判断、一部の会員（主たる発表先と異なる人・他地方会で役職についている人）がオプションとなる、上記のシステム改修の見積もりとして456万円が提示（承認）されていることなどである。

なお、主たる所属は1つで、本会会員はどここの地方会で発表してもよい（クレジットの制限は厳守）という方向性を今後の委員会で確認する。

(16) J-MACS委員会

J-MACSのデータをどのように解析して、公表するか、同意書の漏れなどを防ぎながら、足りない部分は同意書の再取得が必要、2018年10月17日本会HPに2010年6月～2017年12月までのStatistical Reportを公開し2018年分は春ごろ掲載予定、メドトロニック社の承認進捗状況などである。

(17) 一般社団法人化委員会

委員会で作成した一般社団法人定款（案）叩き台が提案され、逐条審議を行った。

2. その他

(1) 補助人工心臓治療関連学会協議会

認定・評価実務委員会（実施医、実施施設、管理施設）、VAD協議会規約の改訂（下部組織のインペラ部会の会計管理のためインペラ部会の監事を高山委員、VAD協議会監事を中谷委員に選任）、インペラ部会報告があった。

(2) インペラ部会

実施施設の申請受付・認定・トレーニング・使用状況、PMS年次報告、施設間搬送について報告があった。

(3) 先天性心疾患の移行医療に関する横断的検討会

上記検討会の結果が報告された。

(4) 骨格筋由来細胞シート協議会について

施設認定の基準が緩められ、厚生労働省からも許可がでており、会議運営に関してはテルモが資金を捻出することになっており、各学会の代表者との会議はメールになる予定である。

“Seed and Soil” in Esophagology～食道学のさらなる発展を目指して～

第73回日本食道学会学術集会の開催にあたって

藤 也寸志 第73回日本食道学会学術集会・会長／国立病院機構九州がんセンター・院長

日本胸部外科学会会員の皆様には、平素よりご指導を賜り心より感謝申し上げます。このたび、第73回日本食道学会学術集会会長を拝命し、本年6月6日（木）・7日（金）の両日、福岡市の福岡国際会議場で学術集会を開催させていただきます。

本学会は、診療科間の垣根、さらに基礎と臨床の垣根を越えた学際的な学会として発展を続け、食道の診療・研究において世界をリードしてきました。私たちは、世界のトップレベルにある本邦の食道疾患の治療成績を更に向上させていかなければなり

ません。一方で、食道疾患に苦しむ患者さんやご家族の満足度をさらに高める努力も必要です。そこで、本学術集会のメインテーマをく“Seed and Soil” in Esophagology～食道学のさらなる発展を目指して～>としました。『All Japanで食道学を更に発展させるために“土を耕し、次世代のための種を蒔く”』ことを目指した学術集会にしたいと思っています。

食道癌のロボット支援手術の保険収載がなされ、今後は従来の開胸手術と胸腔鏡下手術の比較検証に加えて、ロボット支援手

術の有効性の検証が必要です。免疫チェックポイント阻害剤の臨床試験も多く行われています。このように治療成績を更に高める研究を推進する一方で、5年生存率が未だ40%前後にとどまる食道癌患者さんを救済する新規治療法の開発や、完治が望めない患者さんへのケアのあり方の議論は不十分のままです。また、根治が得られた食道癌サバイバーに対する認識も高めていかなければいけません。また、食道癌分野のトランスレーショナルリサーチは他分野に比べて大きく遅れており、その原因を真剣に考える必要があります。

以上のような問題意識のもと、メインテーマの実現のために、診療科を問わず、基礎・臨床を問わず、医師・他職種医療者を問わず、またベテラン・若手を問わず、All Japanでの参加と議論が多くできるような企画をしました。既に演題募集は終え、約880題と過去最高の登録をいただきました。特別講演として、基礎医学の立場から国立



がん研究センター理事長の中釜斉先生、教育講演として、終末期の悲嘆に寄り添う緩和ケアを実践され「ミトルヒト」の作者である本願寺派善福寺住職の長倉伯博先生のご講演をいただきます。是非、ホームページ (<https://www.congre.co.jp/jes2019/>) をご覧下さい。

実りの多い学術集会にすべく精一杯努力したいと思います。胸部外科学会の皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

第72回日本胸部外科学会定期学術集会 胸部外科の伝統とイノベーション

会期：2019年10月30日（水）～11月2日（土）

会場：国立京都国際会館 〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池

会長：伊達 洋至（京都大学 呼吸器外科学 教授）

URL：http://www.congre.co.jp/jats2019/

※演題募集期間は終了いたしました。多数のご応募をいただき、ありがとうございました。

Postgraduate Course（予定）

心臓血管外科コース	呼吸器外科コース	食道外科コース
10月30日（水）・11月2日（土）	11月2日（土）	11月2日（土）

主要プログラム

- ①特別企画
- ②シンポジウム
- ③ビデオシンポジウム
- ④パネルディスカッション
- ⑤ワークショップ
- ⑥ビデオワークショップ
- ⑦クリニカルビデオセッション
- ⑧一般演題（口演・ポスター）

主催事務局：

京都大学 呼吸器外科学 〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町54
Tel：075-751-4975 Fax：075-751-4974

運営事務局：

株式会社コングレ 大阪本社 〒541-0047 大阪市中央区淡路町3-1-13
Tel：06-6229-2555 Fax：06-6229-2556
E-mail：jats2019@congre.co.jp

呼吸器外科サマースクール

肺の手術にトライしてみよう

本年も開催いたします！
(2019年4月2日現在 予定)

2019 8/17（土）・18（日）【会場】神戸医療機器開発センター（MEDDEC）ニチイ学館ポートアイランドセンター

心臓血管外科サマースクール

君も心臓血管外科ビレッジに集まろう！見えてくるぞ、心臓血管外科医！

2019 8/17（土）・18（日）【会場】テルモメディカルプラネックス

参加申込など詳細は日本呼吸器外科学会、日本心臓血管外科学会、当会のHPをご覧ください。

日本胸部外科学会 オリジナルネクタイ販売

限定 300本

深みのある紺地に赤・緑・黄のストライプと心・肺・食をイメージしたロゴマークが施されたデザインとなっております。会員の皆様、学術集会参加の際などに是非お一ついかがでしょうか！お申し込みの詳細は学会 web サイトをご覧ください。

<http://www.jpats.org/>



編集後記

私は今、桜が満開の大阪でこの編集後記を書いています。4月1日には5月からの新元号は「令和」と発表され、いよいよ「平成」が終わりを告げ、新時代の幕開けの気運が高まっています。その中で1面のトップを飾るのは、長年に亘りJATSが取り組んできた英文機関誌GTCSが念願のIFを獲得すると嬉しい報告です。IFがつくと国内に限らず海外からの投稿も一気に増加し、自然と論文の質も向上してきます。しかし、日本がもっている高い手術技術と治療成績を世界に発信していくためには、更にIFを上げていく必要があります。ご存知のようにIFは自紙に掲載された2年間の論文がどれだけ他の論文に引用されたかを数値化して評価する指標で、論文投稿をされる際には是非GTCSの中の論文を引用して頂くをお願いいたします。特に、Annual reportは各論文のIntroductionには必ず引用して頂くのではと思います。是非とも皆さんと一緒にこのGTCSを世界に誇れる雑誌にまで育てていけるようにご協力をお願いする次第です。

2面には昨年10月からオープンしたJATS Academyの紹介があります。ここでしか見れない超一流の先生の手術ビデオがラインアップされています。昔と違って今はビデオで何度も繰り返して学ぶことができます。是非ともご活用頂き、自身のスキルアップを図っていただければ幸いです。

3面には理事会ニュース、4面には今年度の日本食道学会および日本胸部外科学会の学術集会の案内が掲載されています。是非とも若手の外科医の先生の多くの参加を期待しています。 広報委員会副委員長 安田 卓司

安田 卓司

所属：近畿大学医学部外科学教室上部消化管部門
卒業大学：大阪大学医学部

略歴

1986年3月 大阪大学医学部 卒業
1994年4月 大阪府立成人病センター 外科医員
2000年1月 大阪大学病態制御外科（現消化器外科）・助手（教）
2006年7月 近畿大学医学部外科・助（准）教授
2013年5月 近畿大学医学部外科学教室上部消化管部門・主任教授

趣味：映画鑑賞・バスケットボール

好きな言葉：意思あるところ、道ありき



日本胸部外科学会 NEWSLETTER

JUST NOW JATS

No.49

2019年5月10日発行

発行◎特定非営利活動法人 日本胸部外科学会

〒112-0004 東京都文京区後楽 2-3-27 テラル後楽ビル 1F

TEL◎03-3812-4253 FAX◎03-3816-4560

URL◎<http://www.jpats.org/>

編集◎日本胸部外科学会 広報委員会

E-mail◎jats-adm@umin.ac.jp

デザイン・制作◎株式会社 杏林舎